

地域公共交通計画の改訂について

(飯能市地域公共交通計画実績評価資料)

令和4年5月30日

飯能市地域公共交通対策協議会

飯能市地域公共交通計画 実績評価資料

平成30年度～令和3年度

飯能市地域公共交通対策協議会

基本目標に対する目標指標と達成状況

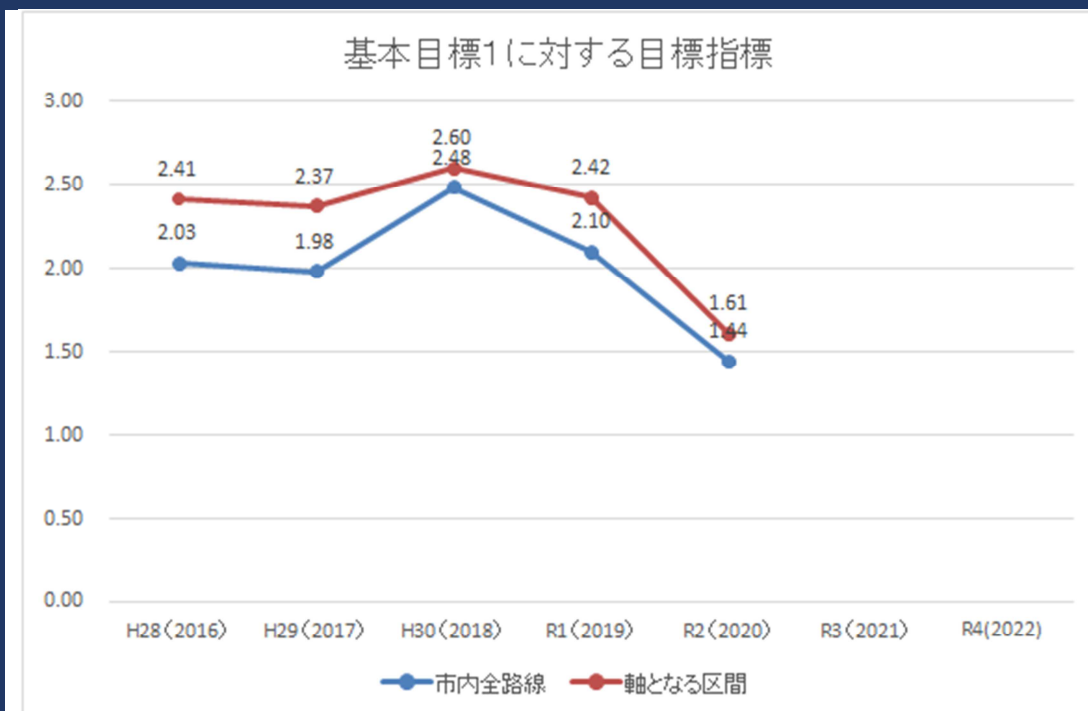
基本目標 1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」
 交通事業者との連携を強化して軸となる路線の維持・改善を図る

目標指標

年間輸送人員／実車走行キロ

- ・市内全路線 当初 2.03 人／kmから現状維持
- ・軸となる路線 当初 2.41 人／kmから増加

達成状況 (H28～R2)



基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」
 利用しやすい公共交通環境をつくり、おでかけを促進する

目標指標

路線バスを1年間に1回以上利用した割合

- ・当初 41% ⇒ 43% (2ポイントの増加)

達成状況

※令和4年度のアンケート調査を基に実施する。

基本目標 3：生活を支える公共交通手段を「つくる」
 おでかけを支える公共交通手段を地域が主体となって確保する

目標指標

将来(10年後)の外出に不安を感じる人の割合

- ・全年代 当初 58% ⇒ 58%未満
- ・65歳以上 当初 84% ⇒ 84%未満

達成状況

※令和4年度のアンケート調査を基に実施する。

基本目標 1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

施策 1：バス路線の維持と継続的な見直し

- ① 交通事業者との連携強化
 - 「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定」の延長（～R5. 3. 31）
 - 各交通事業者との連携強化
- ② 補助金の継続
 - 地域乗合バス路線対策費補助金の交付
 - 新型コロナウイルス感染症対策の支援金等の交付
- ③ 利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し
 - 支線路線の利用状況調査
 - 国際興業(株)による生産性向上及び路線の最適化の取組
 - ・ヤマト運輸(株)と連携し、バス利用客とあわせて宅配便を載せて運ぶ貨客混載事業を開始した。
 - ・実証実験の結果を基に「飯能ワンコインゾーン」を廃止した。
 - ・国際興業バス支線路線（中藤・中沢線、間野黒指線）の再編を開始した。

施策 2：観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

- ① 観光施策と連携した利用促進
 - 観光イベントによる利用促進の実施
 - ・お散歩マーケットを代表する各種エコツアー
 - ・わくわく名栗クラブによる川遊び体験
 - ・路線バス途中下車の旅の会による各事業 ほか
- ② 市内コンテンツを活用した利用促進
 - 「ヤマノススメ」ラッピングバスの運行
 - 訪日外国人向けチケットの販売（R1）
 - 観光型 MaaS「Meets! Hanno Pass」の販売（R2、R3）
- ③ おでかけ促進と連携した利用促進
 - 施設内でのバス時刻表の掲示等
 - バスの時刻にあわせたイベントの開催

施策 3：バス運行環境の整備

- ① バス停の待合環境の改善
 - 各停留所の待合環境の改善
 - 「OH!!!・天覧山下」、「ノーラ名栗・さわらびの湯」等
 - 「危険バス停」の現地確認と対策検討
- ② 施設を活用した待合環境の整備
 - 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の運用
 - 名栗本線との交通結節点としての「新寺」バス停の環境整備
- ③ 飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善
 - メッツァの開業に伴う待合環境整備
- ④ 市内道路網の課題解決に向けた取組の実施
 - 飯能大河原線の開通
 - 国際興業バス「尾長入口」、「名郷」停留所舗装
 - 岩沢地内の阿須小久保線の跨線橋の供用開始

施策 4：需要に対応したバス路線の見直し

- ① 施設立地等に対応したバス路線の見直し
 - メッツァ行直通シャトルバスの運行開始（3社共同運行）
 - 国際興業バス路線及び停留所名称の変更
 - ・間野黒指線（飯 11 系統）工業団地乗入れ（H30） → 廃止（R2）
 - ・西武飯能日高線（飯 07 系統）等の路線変更（H30）
 - ・「OH!!!・天覧山下」（飯 07 系統）バス停車帯設置（R1、R2）
 - ・「畑中」停留所の移設（R1）
 - 支線である飯能市乗合ワゴンの経路見直し

基本目標2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

施策1：バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

- ① わかりやすいバス案内看板の設置
 - 飯能駅改札口前にデジタルサイネージ設置
 - 「飯能市バス観光案内」看板の設置とメンテナンス（R1～）
- ② バスマップの作成・配布
 - 飯能市バスルートマップの改訂、配布
 - 飯能市乗合ワゴンの案内リーフレットの作成、配布

施策2：市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

- ① まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント
 - はんのう市公共交通ニュースの発行
 - 市広報等による交通事業者の各種サービスのPR
 - 飯能市乗合ワゴンの沿線施設におけるPR
- ② 通勤・通学者に対するモビリティマネジメント
 - ノーマイカーデーの実施（H30～R3）
 - 「乗合ワゴンに乗ってみようキャンペーン」の実施（R3）

施策3：マイバス意識の醸成

- ① バスを使ってもらう取組
 - 「路線バスで行く！飯能スゴイところスタンプラリー」の実施（H30）
 - 「名栗ひななざりきっぷ」の発売（R1）
 - 路線バス車内における観光PR動画放映（R2～）
- ② バスのことを理解してもらう取組
 - 地域公共交通講演会「みんなで考えよう おでかけの足」の実施（H30）
 - 出前講座の実施（H30、R1、R3）
 - 「乗り方教室・運転手体験」の実施（H30、R1）
 - 「ノリノリ！のりものフェスティバル」（H30～R1、ダイアプラン公共交通部会主催）
 - コロナ禍における国際興業バス車内での感染予防PRの実施（R2～）
- ③ 地域におけるマイバス意識の醸成
 - 利用促進ポスティングの実施
 - 各地区への公共交通に関する講演、情報提供の実施
 - 移動手段の導入に関する地区検討会（精明、加治、加治東地区）の開催
 - 移動手段の導入に関する地区検討会（原市場、南高麗地区）の開催

施策4：公共交通利用のための利便性の向上

- ① 乗継利便性の向上
 - 新寺バス停付近の自転車駐輪場の維持管理
- ② 高等学校等バス通学費補助
 - 補助金の交付（H30～R3）
 - 補助制度の見直し（R3）
- ③ 利便性向上のための設備投資
 - 駅ホーム内方線付き点状ブロック整備事業の実施（H30、R1）
・東飯能駅（JR、西武池袋線）、元加治駅（西武池袋線）で実施
 - 駅ホーム声かけサポート講習会の開催（R1）
 - イーグルバス㈱ 交通系ICカードサービス開始（R1）
 - 西武バス美杉台路線における自動運転実証実験の実施（R2）
 - 名栗地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験等の取組（R3）

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

施策1：「おでかけ」を守るための検討

① 飯能市地域公共交通対策協議会の運営

- 飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(第6回～第17回)

② 地域での交通手段を導入するための仕組みづくり

- 交通手段の導入手引きの策定と運用
- 「公共交通空白地有償運送支援補助金」の創設と運用
- 「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の新設
- 高齢者安全技能講習会の開催

③ 地域による主体的な運営組織づくり

- 自家用有償旅客運送事業「奥武蔵らくらく交通」の運行開始
- 各地区の端末交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援(たすけあいあがの、飯能リハビリ館ほか)
- 「飯能市介護予防・生活支援サービスの充実に関する協議体(第1層協議体)」の開催

施策2：社会資源の活用の検討

① スクールバスの混乗

- 奥武蔵小学校(旧吾野小)スクールバス混乗制度の実施

② 送迎バスの活用検討

- 飯能市乗合ワゴンの運行開始と総合福祉センター送迎バスの廃止
- 「飯能リハビリ館の送迎車の空席を活用した移送事業」の実証運行の開始

基本目標 1 : 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

交通事業者との連携を強化して軸となる路線の維持・改善を図る

施 策	1 バス路線の維持と継続的な見直し	実施主体	市、交通事業者
施策名	① 交通事業者との連携強化		
実績の概要			
<p>●「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定」の延長（～R5. 3. 31） 国際興業(株)と市で締結している当該協定について両者で協議し、R2. 4. 1～R5. 3. 31 まで3年間延長した。</p> <p>●各交通事業者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者3社とは地域公共交通対策協議会の分科会等を通して情報共有、意見交換を行っている。 ・JR 東日本、西武鉄道については、市からの要望活動及び打ち合わせ等を活用し情報共有、意見交換を行った。 ・タクシー事業者については、メツァ開業に伴い、観光担当課から観光政策の説明会を開催すること等により連携強化を図った。 			
各年度の取組			
H30 —			
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・国際興業(株)と市で締結している「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定書」について両者で協議し、R2. 4. 1～R5. 3. 31 まで3年間延長した。 ・市内タクシー事業者に対しては、メツァのグランドオープンに伴って観光客による利用が増加していることから、市との連携強化を図っている。 		
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の支援金を通して情報共有を行った。 		
R3	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 東日本について「もっと、にしたま。」プロジェクト、八高線のワンマン化に関連する打ち合わせ等を活用して情報共有、意見交換を行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策の支援金を通して情報共有を行った。 		
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・市内路線の維持、確保のため補助金を交付している国際興業(株)と市では今後も連絡を密にし、各路線の利用状況等について情報共有する。 ・各交通事業者と市においては、今後も引き続き情報共有、意見交換を行っていく。 			

施策 1 バス路線の維持と継続的な見直し

実施主体 市

施策名 ② 補助金の継続

実績の概要

●地域乗合バス路線対策費補助金の交付

地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき市内路線（4路線）に対して補助金を交付した。

補助金交付により、山間地域の住民の通勤、通学をはじめ、高齢者等の車を運転しない住民の通院、買い物等の際の移動の足を確保することができた。当該路線は、地域住民の生活の足としてだけでなく、ハイカー等の観光客の足としてもなくてはならないものである。

●新型コロナウイルス感染症対策の支援金等の交付

R2からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、国の地方創生臨時交付金を活用し市内交通事業者に対して支援金等を交付した。

各年度の取組

H30 ・湯の沢線、名栗車庫線、間野黒指線、中沢線 6,320万円

R1 ・湯の沢線、名栗車庫線、間野黒指線、中沢線 6,320万円

R2 ・湯の沢線、名栗車庫線、間野黒指線、中沢線 6,320万円

・新型コロナウイルス感染症関連

事業名	対象	支援金総額
①飯能市公共交通対策臨時支援金	路線バス、タクシー	431万円
②飯能市路線バス混雑緩和対策補助金	路線バス	697万円
③飯能市公共交通安心運行支援金	路線バス、タクシー	494万円
④飯能市地域公共交通事業者支援金	路線バス、タクシー	379万円
⑤飯能市地域幹線交通維持確保支援金	路線バス	3,000万円

R3 ・湯の沢線、名栗車庫線、間野黒指線、中沢線 6,320万円

・新型コロナウイルス感染症関連

事業名	対象	支援金総額
①令和3年度飯能市地域公共交通事業者支援金	路線バス、タクシー	2,051万円
②令和3年度第2次飯能市地域公共交通事業者支援金	路線バス、タクシー	861万円
③令和3年度飯能市地域幹線交通維持確保支援金	路線バス	2,000万円

今後の課題

・路線バスが基幹公共交通となっている地区を運行する路線バスについては、住民の移動手段としてだけでなく、市街地から山間地域の観光拠点等をつなぐ移動手段としての役割を果たしており、今後も補助金を継続し、維持確保していく必要がある。

・補助金を交付してもなお維持が難しい路線については、利用者数の推移、沿線地域の状況等を十分に把握した上で、代替案の検討をあわせて進めていく。

・新型コロナウイルス感染症対策のための国の支援状況を考慮しつつ、引き続き市においても市内交通事業者に対する支援等を検討する。

施策

1 バス路線の維持と継続的な見直し

実施主体

市、交通事業者

施策名

③ 利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し

実績の概要

●支線路線の利用状況調査

国際興業バス支線路線について、国際興業(株)からの乗降データ及び市担当者による乗込調査により、今後の当該路線のあり方について検討を開始した。

●国際興業(株)による生産性向上及び路線の最適化の取組

- ・ヤマト運輸(株)と連携し、バス利用客とあわせて宅配便を載せて運ぶ貨客混載事業を開始した。
- ・実証実験の結果を基に「飯能ワンコインゾーン」を廃止した。
- ・国際興業バス支線路線（中藤・中沢線、間野黒指線）の再編を開始した。

各年度の取組

H30 ○国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線の乗込調査を実施した。

R1 ○国際興業バス湯の沢線における貨客混載事業の開始

国際興業(株)とヤマト運輸(株)が連携し、バス利用客とあわせて宅配便を載せて運ぶ貨客混載事業を開始した。補助対象路線である国際興業バス名栗方面路線の生産性向上による増収につながることを期待できる。

- ・開始日 2月25日
- ・実施日 平日ダイヤ運行日のみ
- ・対象便 飯能駅 14:25 発 湯の沢行（飯01-2系統）



R2 ○国際興業バス「飯能ワンコインゾーン」の廃止

平成26年度に実施して以降、市からの延長要望により継続していた当制度の実証実験について、新型コロナウイルス感染症の影響や当制度の輸送実績等を鑑みて、令和3年3月31日をもって終了した。

R3 ○国際興業バス支線路線の再編

- ・国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線について、当該路線の乗降データ、市による乗込調査の結果等を分析し、新しい移動手段の運行案を作成した。
- ・運行案について、沿線の地域住民の代表者からなる地区検討会、意見募集箱の設置、バス乗込調査による利用者アンケートの実施により、地域住民及び利用者からの意見を反映した。
- ・国の「地域旅客運送サービス継続事業」を活用して新しい移動手段の実施方針を策定し、運行事業者を公募したところ、両地区とも国際興業(株)に決定した。

今後の課題

○中藤・中沢線、間野黒指線について

- ・当該地区の新しい移動手段について、運行事業者である国際興業(株)と市において、実証運行開始（R4.9月予定）に向けて、実証運行の内容について協議を進める。
- ・現行の路線バスからの移行について、利用者及び地域住民に対して十分な周知を行う。
- ・実証運行の利用実績についてモニタリングを行い、運行経路や確保すべき運行水準を見極め、本格運行（R5.9月開始予定）に向けた検討を行う。

○その他路線の見直しについて

- ・交通事業者の申し出に基づき、利用実績等をもとに必要なに応じて市と交通事業者において協議を行う。

施策

2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

実施主体

市、地域、交通事業者

施策名

① 観光施策と連携した利用促進

実績の概要

●観光イベントによる利用促進の実施

- ・お散歩マーケットを代表する各種エコツアー、わくわく名栗クラブによる川遊び体験、路線バス途中下車の旅の会による各事業をはじめ、多くの利用促進事業が実施された。
- ・R2以降、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の開催が難しい状況となった。

各年度の取組

H30 ○エコツアー等の観光施策と連携したバス・鉄道の利用促進の実施

地区	事業名
南高麗	・お散歩マーケット（春・秋）
原市場	・「星空ヨガと古民家フレンチの旅」 ・「春の星カツ旅！写経・マクロビ・星空観測」
名栗	・名栗でわくわく！親子で川遊び体験 ・「わくわくNAGURI通信（第7号）」発行 ・第8回名郷味市 ・なぐり見聞食ブラさんぽ
その他	・各エコツアーの実施 ・路線バス途中下車の旅 ・国際興業バス車内液晶画面の活用



△お散歩マーケット

R1 ○エコツアー等の観光施策と連携したバス・鉄道の利用促進の実施

地区	事業名
南高麗	・お散歩マーケット（春・秋）
原市場	・神社ヨガ体験&健康フレンチの旅
名栗	・「わくわくNAGURI通信（第8号）」発行 ・第9回名郷味市 ・第20回名栗ふるさとまつり ・なぐり見聞食ブラさんぽ ※川遊び体験は中止
その他	・各エコツアーの実施 ・路線バス途中下車の旅 ・国際興業バス車内液晶画面の活用 ・交通事業者向け事業説明会・意見交換会



わくわくNAGURI通信

R2 ○エコツアー等の観光施策と連携したバス・鉄道の利用促進の実施

- ・「わくわくNAGURI通信（第9号）」発行
- ・各エコツアーの実施
- ・はんのう応援連携事業「森と湖と花火と。」

R3 ○エコツアー等の観光施策と連携したバス・鉄道の利用促進の実施

地区	事業名
名栗	・ノーラ名栗 サウナイベントの実施 ・名栗丸太雛めぐり（2/25～3/6）
その他	・各エコツアーの実施 ・路線バス途中下車の旅（4事業） ・国際興業バス車内液晶画面の活用



△路線バス途中下車の旅チラシ

今後の課題

- ・今年度もコロナ禍の影響により、例年実施されている事業、イベントの多くが中止となった。
- ・今後もコロナ禍の状況を見極めつつ、市内の観光スポットでのイベント等をはじめ観光施策と連携した公共交通の利用促進事業を検討していく。

施策

2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

実施主体

交通事業者、地域、市

施策名

② 市内コンテンツを活用した利用促進

実績の概要

●「ヤマノススメ」ラッピングバスの運行

国際興業バス「ヤマノススメ」ラッピングバスを各種イベントで活用し、路線バスのPRに効果を発揮している。

●訪日外国人向けチケットの販売 (R1)

市内交通事業者及び(株)ムーミン物語が連携して、ムーミンバレーパーク入園券、西武鉄道1日フリー乗車券、飯能駅または東飯能駅からパークまでの往復バス乗車券の3点がセットになった企画乗車券を訪日外国人向けに発売した。

●観光型MaaS「Meets! Hanno Pass」の販売 (R2、R3)

市内交通事業者、(株)ムーミン物語、ジョルダン(株)が連携して、ムーミンバレーパーク入園券、シャトルバス往復乗車券、市内のお店で優待が受けられるクーポン券の3点がセットになった企画乗車券を発売した。

各年度の取組

H30 ○ヤマノススメラッピングバス1号車ラストランイベント

・9月24日で1号車が引退となり、現在は2号車、3号車の2台が運行している。

R1 ○「MOOMINVALLEY PARK Ticket & Travel Pass」の発売

- ・概要 ①西武線全線1日乗降自由(多摩川線を除く)
②「飯能駅北口」または「東飯能駅東口」～「メッツァ」間の1往復
③ムーミンバレーパーク入園チケット(乗り物券などは別途)
※乗車日当日に限り有効

・発売額 大人:2,700円、小児:1,600円 ※金額は発売当初

・期間 7月20日から通年

・対象 訪日外国人観光客

・主催 西武鉄道(株)、(株)ムーミン物語、西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)



R2 ○飯能市観光MaaSのモバイルチケット「Meets! Hanno Pass」の販売

・価格 大人(中学生以上)2,600円 子ども1,480円(6歳以上小学生以下)

・期間 令和2年9月14日～令和3年1月11日

- ・内容 ①ムーミンバレーパーク入園チケット
②シャトルバス往復乗車券
③市内のお店で優待が受けられるクーポン券

・主催 (株)ムーミン物語、西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)、ジョルダン(株)

・協力 飯能市



R3 ○飯能市観光MaaSのモバイルチケット「Meets! Hanno Pass 2」の販売

・期間 7/29～3/31 ※コース④のみ8月下旬～

・コース ①ムーミンバレーパーク入園チケット+シャトルバス往復券

②宮沢湖温泉 喜楽里別邸入館券+シャトルバス往復券

③生活の木 薬香草園優待券+バス往復券

④ノーラ名栗優待券+名栗エリア1日乗車券

※すべてのコース 市内のお店で優待が受けられるクーポン券付き

・主催 西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)、ジョルダン(株)

・協力 飯能市、(一社)奥むさし飯能観光協会

○「ムーミンバレーパークおでかけパス」の販売

・期間 12/10～2/27

・内容 ①西武線(多摩川線を除く)1日乗り降り自由の乗車券

②飯能駅北口～メッツァ間のバス往復乗車券

③ムーミンバレーパークの1デーパス

・金額 大人3,300円、小児2,000円(税込)

・主催 西武鉄道(株)、(株)ムーミン物語、西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)



今後の課題

・市内の観光施設利用とあわせた公共交通利用を促進するため、引き続き MaaS を含めた企画等を検討していく。

施策	2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施	実施主体	地域、市、交通事業者
施策名	③ おでかけ促進と連携した利用促進		
実績の概要			
<p>●施設内でのバス時刻表の掲示等 市内の一部公共施設では、施設的最寄りのバス停の時刻表を施設内に掲示すること、冊子に案内を掲載すること等により、施設利用者に対して路線バスの利用を案内している。</p> <p>●バスの時刻にあわせたイベントの開催 イベント等の周知記事にイベント等の開始時間に間に合う路線バスの案内を掲載することにより、地域を運行する路線バスの利用促進を行っている。</p>			
各年度の取組			
H30	○施設内でのバス時刻表の掲示等 ○バスの時刻にあわせたイベントの開催		
R1	○施設内でのバス時刻表の掲示等 ○バスの時刻にあわせたイベントの開催		
R2	○施設内でのバス時刻表の掲示等 ○バスの時刻にあわせたイベントの開催		
R3	○施設内でのバス時刻表の掲示等 ○バスの時刻にあわせたイベントの開催		
今後の課題			
<p>・今後も公共交通を利用できる位置にある公共施設、商業施設等の協力により、地域の行事や地域内での買い物に路線バス等の公共交通を利用してもらえるように取組を継続し、研究を進めていく。</p>			

施策 3 バス運行環境の整備
施策名 ① バス停の待合環境の改善

実施主体 地域、市、交通事業者

実績の概要

- 各停留所の待合環境の改善
「OH!!!・天覧山下」、「ノーラ名栗・さわらびの湯」等のバス停について、待合環境の改善を実施した。
- 「危険バス停」の現地確認と対策検討
市内の危険なバス停について、運行事業者、飯能警察署及び市において現地確認と対策検討を行った。
該当停留所 64 か所の現地確認と対策検討を行い、うち 16 か所について安全対策を実施した。

各年度の取組

H30 既存のベンチについては引き続き運用しているが、新たな環境整備については候補地の検討にとどまっている。



△「飯能靖和病院前」バス停

R1 既存のベンチについては引き続き運用している。新たな環境整備について候補地の検討をしている。



△「OH!!!・天覧山下」バス停

R2 ○「ノーラ名栗・さわらびの湯」停留所の待合所整備
ノーラ名栗のオープンにあわせて、西川材の「はしらベンチ」を活用し、「ノーラ名栗・さわらびの湯」停留所の待合所の整備を行った。
○国際興業バスの「危険バス停」の現地確認と対策検討
国際興業(株)、飯能警察署及び市において、国交省から指定された、いわゆる「危険バス停」64 か所（A ランク～C ランク）について現地確認と対策検討を行った。



△「ノーラ名栗・さわらびの湯」バス停

R3 ○国際興業バスの「危険バス停」の現地確認と対策検討
国際興業(株)、飯能警察署及び市において、市内のいわゆる「危険バス停」64 か所（A ランク～C ランク）のうち、16 か所（うち A ランク 12 か所）について安全対策を実施した。

今後の課題

- ・今後も主要なバス停において、快適に利用できるよう環境整備を検討していくとともに、「はしらベンチ」の活用等を含めて待合環境整備のためのルール作りを検討する。
- ・市内の「危険バス停」については、今後も国際興業(株)、飯能警察署及び市の3者で連携し、停留所ごとに対策を検討することを予定している。

施 策	3 バス運行環境の整備	実施主体	市、地域、交通事業者
施策名	② 施設を活用した待合環境の整備		

実績の概要

- 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の運用
 - 名栗本線との交通結節点としての「新寺」バス停の環境整備
- R3の国際興業バスの支線再編に際して、「新寺」バス停を交通結節点として環境整備をしていくこととした。

各年度の取組

H30 ○ 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の見直し
 ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットについて施設の移設等による修正、見直しを行った。



R1 ○ 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の見直し
 ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットについて施設の移設等による修正、見直しを行った。



R2 ○ 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の見直し
 ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットについて施設の移設等による修正、見直しを行った。

R3 ○ 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の見直し
 ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットについて施設の移設等による修正、見直しを行った。

○国際興業バス中藤・中沢線の見直しに際して、「新寺」バス停を交通結節点として環境整備をしていくこととした。また、国際興業バス間野黒指線については見直し後も飯能駅に接続することとした。

今後の課題

- ・「バスまちスポット」、「まち愛スポット」の新規設置について候補場所の検討を行う。
- ・「新寺」バス停については、中藤方面からの支線路線との結節点となり乗換拠点となるため、環境整備が課題となる。
- ・今後も本計画に基づき「軸となる路線」と「支線となる路線」の結節点を見極めて対象箇所の選定を行っていく。

施策	3 バス運行環境の整備	実施主体	交通事業者、市
施策名	③ 飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善		
実績の概要			
<p>●メツァの開業に伴う待合環境整備 メツァビレッジ、ムーミンバレーパークの開業に伴い、飯能駅北口の待合環境の整備を実施した。</p>			
各年度の取組			
H30	<p>○メツァの開業に伴う待合環境整備 11月9日メツァビレッジ、3月16日ムーミンバレーパークの開業に伴い、バス利用者の待合環境の整備を実施した。</p>		△飯能駅北口ロータリー
R1	<p>○バス案内看板の設置 本市を訪れた観光客が路線バスに容易に乗り継ぎ、目的地に向かうことができるよう、飯能駅北口ロータリー内に観光スポットと最寄りバス停、バスのりばを掲載したバス案内看板を新たに設置した。</p>		△バス案内看板の設置
R2	<p>○バス案内看板のメンテナンスの実施 本市を訪れた観光客が路線バスに容易に乗り継ぎ、目的地に向かうことができるよう、飯能駅北口ロータリー内に観光スポットと最寄りバス停、バスのりばを掲載したバス案内看板についてメンテナンスを実施した。 ○飯能駅北口ロータリーへのベンチ設置検討 利用者からの要望を受け、飯能駅北口ロータリー内へのベンチの増設について、市と西武鉄道(株)で検討を行った。</p>		
R3	<p>○飯能駅北口ロータリーへのベンチ設置検討 利用者からの要望を受け、飯能駅北口ロータリー内へのベンチの増設について、市と西武鉄道(株)で検討を行った。</p>		
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー内の混雑が、バス、タクシーの円滑な運行に支障をきたしている。 ・ロータリー内の通路の狭さなどの課題もあり、待合ベンチの増設が難しい状況となっている。今後も安全面を考慮した上で、引き続き関係機関と調整する。 ・飯能駅北口発着のバスについて、利用者の利便性の向上のため、バスロケーションシステムの導入や支線系統への乗継便表記の検討を行っている。 			

施策	3 バス運行環境の整備	実施主体	市
施策名	④ 市内道路網の課題解決に向けた取組の実施		
実績の概要			
<p>●飯能大河原線が開通した。 開通により国際興業バス西武飯能日高線及び間野黒指線の経路変更につながった。</p> <p>●国際興業バス「尾長入口」、「名郷」停留所舗装を実施した。 舗装により、バス車内及び待合所にいるバス利用者の安全性が向上した。</p> <p>●岩沢地内の阿須小久保線において跨線橋の供用を開始した。</p>			
各年度の取組			
H30	<p>○飯能大河原線の開通 3月4日に開通式を行った。飯能大河原工業団地への産業道路として活用されており、国際興業バス西武飯能日高線及び間野黒指線の経路変更につながった。</p>		
R1	<p>○国際興業バス「尾長入口」、「名郷」停留所舗装の検討 国際興業バス路線の「尾長入口」バス停のバス停車帯、「名郷」バス停の転回場について、砂利敷きになっており、バス利用者の安全確保等の観点からコンクリート舗装の要望がバス事業者から市に提出された。舗装工事について検討を行うとともに、当該バス停付近の地権者等と調整を行った。</p>		
R2	<p>○国際興業バス「尾長入口」、「名郷」停留所舗装の実施 国際興業バス「尾長入口」バス停のバス停車帯、「名郷」バス停の転回場について、国際興業(株)からの要望に基づき、市において舗装工事を実施した。これにより、バス車内及び待合所にいるバス利用者の安全性が向上した。</p> <p>○都市計画道路阿須小久保線と市道1-5号線との交差点工事 工事に向けて用地交渉中である。</p> <p>○阿須小久保線の跨線橋工事 岩沢地内の阿須小久保線において、跨線橋工事を開始した。</p>	 <p>△「名郷」バス停</p>	
R3	<p>○都市計画道路阿須小久保線と市道1-5号線との交差点工事 工事に向けて用地交渉中である。</p> <p>○岩沢地内の阿須小久保線において跨線橋の供用を開始した。</p>		
今後の課題			
<p>・一連の整備工事完成後のメツァとトーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園の相互アクセス利便性の向上のための公共交通施策について、交通事業者等と協議していく。</p>			

施策	4 需要に対応したバス路線の見直し	実施主体	交通事業者、市
施策名	① 施設立地等に対応したバス路線の見直し		
実績の概要			
<p>●メツァ行直通シャトルバスの運行開始（3社共同運行）</p> <p>●国際興業バス路線及び停留所名称の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間野黒指線（飯11系統）工業団地乗入れ（H30） → 廃止（R2） ・西武飯能日高線（飯07系統）等の路線変更（H30） ・「OH!!!・天覧山下」（飯07系統）バス停車帯設置（R1、R2） ・「畑中」停留所の移設（R1） <p>●支線である飯能市乗合ワゴンの経路見直し 実証運行の利用実績等を基に以下のとおり運行経路等を変更し、本格運行を開始した。（R4.1.24～）</p>			
各年度の取組			
H30	<p>○国際興業バス間野黒指線（飯11系統）工業団地乗入れ H30.5.16 運行開始 飯能大河原工業団地内に国際興業バス間野黒指線の路線を延長し、同工業団地の通勤者の利便性向上につなげた。</p> <p>○メツァ行直通シャトルバスの運行開始（3社共同運行）H30.11.8 運行開始 宮沢湖畔にムーミンのテーマパーク「メツァ」が開業したことに伴い、イーグルバス、西武バス、国際興業バスの3社により飯能駅北口及び東飯能駅東口から直通シャトルバスの運行を開始した。また、3月16日の同パークのグランドオープンに合わせ輸送力を増強し、東飯能駅からの平日便の運行を開始した。</p> <p>○国際興業バス西武飯能日高線（飯07系統）等の路線変更 H31.3.16 運行開始 市道飯能大河原線の開通に伴い、国際興業バス西武飯能日高線及び間野黒指線の路線変更を実施した。また、併せて「飯能西中学校」、「飯能第一小学校」及び「天覧山下」バス停を新設し、並びに旧「天覧山下」バス停を「市民会館・博物館」に名称変更することで周辺公共施設等のアクセス利便性が向上した。</p>		
R1	<p>○国際興業バス「天覧山下」（飯07系統）バス停車帯設置（下り線） 昨年度実施した当該バス路線の経路変更の一環として整備した。今年度、食のテーマパーク「OH!!!」（株）ピクルスコーポレーション）の開業に伴い、更なる観光客の増加が見込まれており、バス利用者の利便性の向上や交通渋滞緩和の効果が期待できる。</p> <p>○国際興業バス「畑中」停留所 移設 地域住民からの要望を受け、「畑中」停留所の移設を行い、バス路線の運行環境の改善や利用者の安全確保につながった。</p>	 <p>△「天覧山下」停留所（下り）</p>	
R2	<p>○国際興業バス「OH!!!・天覧山下」バス停車帯設置（上り線） 昨年度、当該停留所の下り線のバス停車帯整備を行ったが、今年度は、当該停留所の上り線について整備を行った。当該地域は、天覧山、能仁寺、食のテーマパーク「OH!!!」などが立地する観光拠点であり、バス利用者の利便性の向上が期待できる。</p> <p>○国際興業バス停留所の名称変更 停留所周辺の観光施設のオープンに伴い、停留所の名称変更を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さわらびの湯」 → 「ノーラ名栗・さわらびの湯」 ・「天覧山下」 → 「OH!!!・天覧山下」 <p>○国際興業バス間野黒指線の大河原工業団地経由便（飯11-2）の廃止 平成30年5月に飯能大河原工業団地への路線延長を実施したが、当該系統の輸送実績や新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少等から令和3年3月31日をもって廃止した。</p>	 <p>△「OH!!!・天覧山下」停留所（上り）</p>  <p>△「OH!!!・天覧山下」停留所</p>	

- R3 ○支線である飯能市乗合ワゴンの経路見直し
実証運行の利用実績等を基に以下のとおり運行経路等を変更し、本格運行を開始した。(R4.1.24~)
- ・精明東コース 運行経路の変更と停留所の移設
廃止：「㉔下川崎中央」「㉕下川崎」 新設：「㉔下川崎西」「㉕下川崎東」
 - ・加治コース 運行経路の延伸と停留所の新設
新設：「㉑デンキチ飯能店前」
 - ・その他 利用実績を基に停留所名称変更及び運行時刻の変更を行った。




△飯能市乗合ワゴン



今後の課題

- ・本格運行を開始した飯能市乗合ワゴンについて、今後も沿線地区の道路新設等が予定されており、路線変更等の検討を継続的に行う。
- ・路線の見直しを行った中藤・中沢線、間野黒指線についても実証運行を通して路線の見直し等を行っていく。
- ・メツァ行直通シャトルバスについて、運行事業者3社の協力のもと円滑な運行が続けられているが、新型コロナウイルス感染症の影響により東飯能駅発着便（m02系統）は運休が続いている。
- ・軸となる路線を含めたその他の路線についても、必要に応じて交通事業者と市で協議していく。






基本目標 2 : 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

利用しやすい公共交通環境をつくり、おでかけを促進する

施策	1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進	実施主体	市、交通事業者
施策名	① わかりやすいバス案内看板の設置		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ● 飯能駅改札口前にデジタルサイネージ（周辺案内図）設置（H30～） ● 「飯能市バス観光案内」看板の設置とメンテナンス（R1～） 			
各年度の取組			
H30	<p>○ 既存のバス案内看板のメンテナンス</p> <p>飯能駅北口ロータリーに市内バス路線の簡易な案内板（カラー印刷、パウチ加工）を作製し、設置している。各社の路線変更、メッツァ行直通シャトルバスを反映したほか、路線沿線の観光スポットの紹介を追記した。</p> <p>○ 飯能駅改札口前にデジタルサイネージ（周辺案内図）設置</p> <p>3月ムーミンバレーパーク開業及び飯能駅改装に合わせ、飯能駅改札口前の自由通路にデジタルサイネージ（表示灯社）が設置された。</p>		<p>△デジタルサイネージ</p>
R1	<p>○ 「飯能市バス観光案内」看板の設置</p> <p>メッツァへの観光客が多く利用する飯能駅北口のバス案内看板をリニューアルした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内マップ 観光スポットとバス路線（デフォルメ版）を表示 ・ 観光スポット紹介 各スポットの説明文、最寄バス停等を掲載 ・ バスのりば 観光スポット別にバスのりばをまとめて表記 ・ 主な表示等には外国人観光客のため英語併記をした。 （各観光スポット説明文の英語版はQRコードで読み込む方式とした。） 		<p>△飯能市バス観光案内看板</p>
R2	<p>○ 「飯能市バス観光案内」看板のメンテナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たにオープンした「OH!!!」、「ノーラ名栗」の表記についてメンテナンスを行った。 ・ 「OH!!!・天覧山下」の停留所名称変更について対応した。 		
R3	<p>○ 「飯能市バス観光案内」看板のメンテナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 系統廃止などにより、一部表記のメンテナンスを行った。 <p>○ 東飯能駅における飯能市乗合ワゴンの停留所案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯能市乗合ワゴン「①東飯能駅東口」停留所の位置案内を東飯能駅構内に設置した。 		<p>△乗合ワゴンののりば案内（東飯能駅）</p>
今後の課題			
<p>○ 飯能駅北口のバス案内看板について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支線路線の再編、「ノーラ名栗・さわらびの湯」の停留所名称変更について対応の必要がある。 ・ 看板盤面のメンテナンスについて、市及び交通事業者で行っていく。また、裏面の活用方法について検討する。 			

施策	1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進	実施主体	市
施策名	① バスマップの作成・配布		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ●飯能市バスルートマップの改訂、配布 ●飯能市乗合ワゴンの案内リーフレットの作成、配布 			
各年度の取組			
H30	<p>○飯能市バスルートマップの改訂、配布</p> <p>メツァ行直通シャトルバス、バス路線変更等を反映するため「飯能市バスルートマップ」（平成27年4月作成、平成29年一部改訂）を改訂し、20,000部増版した。情報面では、観光情報を掲載するほか3月のムーミンバレーパークの開業に合わせ新たにメツァの紹介面を設けた。また、市内の公共施設等で市民に広く配布した。</p>	 <p style="text-align: right;">△飯能市バスルートマップ</p>	
R1	<p>○「飯能市バスルートマップ」の増刷、配布</p> <p>10,000部増刷し、市内の公共施設等で市民に広く配布した。</p>		
R2	<p>○「飯能市バスルートマップ」の配布</p> <p>市内の公共施設等で市民に広く配布した。</p> <p>○飯能市乗合ワゴンの案内リーフレットの作成、配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証運行版を広報はんのう3月号内の特別ページに掲載した。 		
R3	<p>○「飯能市バスルートマップ」の配布</p> <p>飯能駅、東飯能駅、市内の公共施設等で市民に広く配布した。</p> <p>○飯能市乗合ワゴンの案内リーフレットの作成、配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本格運行版を広報はんのう1月号内の特別ページに掲載した。 ・案内用リーフレットとして、東飯能駅ほか沿線施設等で配布している。 	 <p style="text-align: right;">△乗合ワゴン案内リーフレット</p>	
今後の課題			
<p>○飯能市バスルートマップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を使ってもらいやすくなるよう、市内の公共施設、商業施設等を通して市民及び観光客等の来訪者に引き続き配布していく。また、警察署と連携し、運転免許返納者に対して配付できるよう進めていく。 ・飯能市乗合ワゴンの新設をはじめ市内路線の再編及び観光施設の更新が必要であるため、紙面の改訂を行う。 			

施策	2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施	実施主体	交通事業者、市
施策名	① まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ●はんのう市公共交通ニュースの発行 ●市広報等による交通事業者の各種サービスのPR ●飯能市乗合ワゴンの沿線施設におけるPR 			
各年度の取組			
H30	<p>○はんのう市公共交通ニュースの発行 市内の公共交通の現状、事業等の情報について、「はんのう市公共交通ニュース」としてまとめ、市民に広く周知した。8月、3月に2回発行し、市内公共施設等に配架したほか、市HPでも公開した。</p> <p>○交通事業者の各種サービスのPR 市広報、公共交通ニュース、市HPで交通事業者による既存の各種サービスについてPRし、主に高齢者の公共交通の利用による外出の促進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際興業バス「彩京のびのびパス」 ・西武ハイヤー 運転経歴証明書による割引サービス 	 <p style="text-align: center;">△公共交通ニュース</p>	
R1	<p>○交通事業者の各種サービスのPR 市広報、市HPで交通事業者による既存の各種サービスについてPRし、主に高齢者の公共交通の利用による外出の促進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際興業バス「彩京のびのびパス」 	 <p style="text-align: center;">△彩京のびのびパスチラシ</p>	
R2	<p>○交通事業者の各種サービスのPR 市広報、市HP、庁内デジタルサイネージで交通事業者による以下の既存の各種サービスについてPRし、主に高齢者の公共交通の利用による外出の促進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際興業バス「彩京のびのびパス」 ・国際興業バス「飯能ワンコインゾーン」 	 <p style="text-align: center;">△デジタルサイネージによるPR</p>	
R3	<p>○交通事業者の各種サービスのPR 市広報、市HPで交通事業者による以下のサービスについてPRし、公共交通利用による外出促進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イーグルバス バス車内換気実験 ・国際興業バス「彩京のびのびパス」 <p>○飯能市乗合ワゴンの沿線施設におけるPR 路線沿線の商業施設、病院、公共施設に飯能市乗合ワゴンの停留所案内を18施設に設置依頼し、利用PRを行った。</p>	 <p style="text-align: center;">△乗合ワゴン沿線施設におけるPR</p>	
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公共交通の現状、各施策、サービス等について、市HP等を通して周知を行っていく。 ・市内の商業施設、集客施設との連携を強化し、外出を促進するための公共交通活用方策を検討する。 			

施策	2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施	実施主体	市、地域、交通事業者
施策名	② 通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント		
実績の概要			
<p>●ノーマイカーデーの実施（H30～R3） 普段、自家用車で通勤（移動）する市内在勤者及び市民に対して、路線バス、鉄道その他の移動手段での通勤（移動）を意識してもらうことで、公共交通の利用に対する意識啓発を目的に実施した。</p> <p>●「乗合ワゴンに乗ってみようキャンペーン」の実施（R3） 飯能市乗合ワゴンの利用PRを目的にノーマイカーデーとあわせて実施した。</p>			
各年度の取組			
H30	<p>○「2018 はんのう市ノーマイカーデー」の実施 参加への動機づけ及び市街地の活性化に繋げることを目的として市内の飲食店等に協力を仰ぎ期間中に限り事業参加者に特典を用意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間 12月10日～12月28日（3週間） ・協賛店 18店舗 ・参加者 579人（内訳）事業所558人（市内13事業所）、個人21人 ・期間後、参加者に対するアンケート（QRコードを活用したWEB回答）により、結果検証を行った。 		
R1	<p>○「2019 はんのう市ノーマイカーデー」の実施 参加への動機づけ及び市街地の活性化に繋げることを目的として市内の飲食店等に協力を仰ぎ期間中に限り事業参加者に特典を用意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間 12月1日～12月31日（1か月間） ・協賛店 25店舗 ・参加者 768名（内訳）事業所698人（市内12事業所）、個人70人 ・期間後、参加者に対するアンケート（QRコードを活用したWEB回答）により、結果検証を行った。 		
R2	<p>○「2020 はんのう・ひだかノーマイカーデー」の実施 バス路線、鉄道路線が乗り合わせている飯能市及び日高市において、公共交通を維持・確保するため、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きな影響を受けた公共交通事業者を支援するために実施した。</p> <p>※「埼玉県地域公共交通活性化促進事業補助金」を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間 12月1日～12月31日（1か月間） ・参加者数 907人（内訳）飯能市 628人 日高市 279人 ・参加事業所 29事業所（内訳）飯能市 13事業所 日高市 16事業所 ・期間後、参加者に対するアンケート（QRコードを活用したWEB回答）により、結果検証を行った。 	 	
R3	<p>○「2021 はんのう市ノーマイカーデー」の実施 公共交通を維持・確保するため、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きな影響を受けた公共交通事業者を支援するために実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間 12/1～12/31（1か月間） ・参加者 227人 ・参加者に対するアンケートにより結果検証を行った。 <p>○「乗合ワゴンに乗ってみようキャンペーン」の実施 飯能市乗合ワゴンの利用PRを目的にノーマイカーデーとあわせて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内 容 ノーマイカーデー参加証の提示により運賃無料 		
今後の課題			
<p>ノーマイカーデーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容、周知方法について、より効果が生み出せるよう見直しを検討する。 ・参加者特典について、アンケート調査では市内の店舗で特典が受けられれば参加したいという回答も多く、今後も検討していく。 ・ダイヤプラン公共交通部会による共同開催について研究、検討を進める。 			

施策	3 マイバス意識の醸成	実施主体	市、地域、交通事業者
施策名	① バスを使ってもらう取組		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「路線バスで行く！飯能スゴイところスタンプラリー」の実施（H30） ● 「名栗ひなかざりきっぷ」の発売（R1） ● 路線バス車内における観光 PR 動画放映（R2～） 			
各年度の取組			
H30	<p>○ 「路線バスで行く！飯能スゴイところスタンプラリー」の実施（11/11）</p> <p>路線バスでアクセスすることができる市内の観光スポットを紹介するスタンプラリーを実施することで、市内の魅力の再発見及びさらなる路線バスの利用促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会 場 市役所駐車場（はんのう生活祭会場） ・ 内 容 模擬バス停とスタンプを設置し、配布したシートにスタンプを5つ全て押した参加者に国際興業バスのオリジナルグッズを進呈した。 ・ 参加者 シート配布 200 枚 景品受領 105 組 ・ 事業後、WEB 上で参加者へのアンケートを実施し、検証を行った。（52 名回答） 		
R1	<p>○ 「名栗ひなかざりきっぷ」の発売</p> <p>「飯能ひな飾り展」が開催にあわせて、名栗地区のひな飾り会場に気軽に路線バスで足を運んでもらうこと、期間中の路線バス利用者を増加させることを目的に、主に女性をターゲットにして 200 枚限定で発売した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ①国際興業バス名栗方面行き 1日フリー切符 ②協賛店で「いっぷくメニュー」 ③国際興業高速バス片道券（池袋～東京ディズニーリゾート、抽選制） ・ 販売期間 2月25日～3月3日（※） 2月10日～先行予約 ・ 販売価格 1,600円 ・ 販売実績 29枚 ・ 共 催 国際興業株、（一社）奥むさし飯能観光協会、飯能市 <p>※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、期間を短縮した。</p>		
R2	<p>○ 路線バス車内における観光 PR 動画放映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際興業株の協力により、市内の路線バス車内 OBC 画面で沿線の観光 PR 動画を放映した。 		
R3	<p>○ 路線バス車内における観光 PR 動画放映の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際興業株の協力により、市内の路線バス車内 OBC 画面で沿線の観光 PR 動画を放映した。 		
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス車内における動画放映は国際興業株の協力により、引き続き実施する。 			

施策

3 マイバス意識の醸成

実施主体

市、交通事業者、地域

施策名

② バスのことを理解してもらう取組

実績の概要

- 地域公共交通講演会「みんなで考えよう おでかけの足」の実施 (H30)
- 出前講座の実施 (H30、R1、R3)
- 「乗り方教室・運転手体験」の実施 (H30、R1)
- 「ノリノリ!のりものフェスティバル」(H30~R1、ダイヤプラン公共交通部会主催)
- コロナ禍における国際興業バス車内での感染予防PRの実施 (R2~)

各年度の取組

H30 ○地域公共交通講演会「みんなで考えよう おでかけの足」(6月6日実施)

- ・会場 飯能市役所本庁舎 501 会議室
- ・講師 吉田 樹氏 (福島大学准教授)
- ・参加者 54 人 (市民 41 : 職員 13)

○「ラッピングバスで乗り方教室・運転手体験」(11月11日実施)

- ・会場 はんのう生活祭会場 (飯能市役所駐車場)
- ・内容 親子対象、参加者に国際興業バスグッズを進呈
- ・参加者 乗り方教室 : 15 人 運転手体験 : 80 組

○「外国人のための乗り方教室」(11月11日実施、国際交流協会共催)

- ・会場 国際興業飯能営業所、鳥居観音
- ・内容 乗り方教室を開催後、名栗紅葉まつりに参加
外国語版バスの乗り方リーフレット配付
- ・参加者 19 人 (国籍 : ペルー、中国、ベトナム等)

○「ノリノリ!のりものフェスティバル」(11月17日実施)

- ・会場 所沢市航空記念公園
- ・内容 バス、タクシー等車両展示、各種イベント
- ・参加者 約 10,000 人
- ・主催 ダイヤプラン公共交通部会

○「みんなで知ろう! 移動手段の最新動向」(2月16日実施)

- ・会場 東吾野地区行政センター
- ・内容 市の交通政策と東吾野地区の移動手段について
- ・参加者 46 人
- ・主催 ふくしの森・東吾野、自治連東吾野支部



△地域公共交通講演会



△外国人のための乗り方教室

R1 ○出前講座 どうする?どうなる?免許返納 (8月20日実施)

- ・会場 飯能市総合福祉センター2階 視聴覚室
- ・内容 第1部「現状を出しあって意見交換」
第2部「総合福祉センターの送迎バス」
- ・参加者 42 名

○乗り方教室・運転手体験 (11月10日実施)

- ・会場 はんのう生活祭会場 (飯能市役所駐車場)
- ・内容 主に親子対象、参加者に国際興業バスグッズ進呈
- ・参加者 乗り方教室 : 11 名、運転手体験 : 170 名、ぬりえコーナー : 64 名
- ・協力 国際興業(株)

○出前講座 どうする?どうなる?免許返納 (8月の続き、11月19日実施)

- ・会場 飯能市総合福祉センター2階 研修室
- ・内容 第1部「私にとって、どうなれば免許返納が実現となるのでしょうか?」
第2部「飯能市の交通政策」
- ・参加者 22 名

○第2回「ノリノリ!のりものフェスティバル」(12月8日実施)

- ・会場 所沢市航空記念公園
- ・内容 バス、タクシー等車両展示、各種イベント
- ・参加者 約 15,000 名
- ・主催 ダイヤプラン公共交通部会



△ノリノリ!のりものフェスティバル

・協 力 埼玉県、関東運輸局埼玉運輸支局、交通事業者等

R2 ○国際興業バス車内での感染予防 PR

国際興業バス車内の OBC 画面を活用し、飯能市の観光 PR 動画を放映していたが、当該画面に新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、「バス事業者による取組」と「乗客への協力」についての内容を追加し、放映した。

○広報はんのう 9/1 号による情報発信

路線バス事業者による感染予防の取組と乗客へのお願いについて記事掲載した。



△感染予防 PR

R3 ○出前講座の実施（路線バス途中下車の会、10月21日実施）

- ・題 目 路線バスの現状
- ・会 場 第二区地区行政センター
- ・参加者 26 人

○国際興業バス車内での感染予防 PR

国際興業バス車内の OBC 画面を活用し、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として「バス事業者による取組」と「乗客への協力」について放映した。




△出前講座

今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症の収束を見極めつつ、各事業の開催を検討していく。
- ・市民の路線バス利用が進まない要因の一つとして、「バスの乗り方がよく分からない」という問題が挙げられる。今後も「乗り方教室」をバス事業者の協力のもとで開催し、バス利用を身近なものにしていく。
- ・公共交通の利用促進を目的とした広域的な啓発事業について、ダイアプラン公共交通部会において引き続き実施を検討する。
- ・市民、団体等の要請に応じて出前講座等を通して市の公共交通の現状等について理解を促していく。

施策	3 マイバス意識の醸成	実施主体	地域、市
施策名	③ 地域におけるマイバス意識の醸成		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ●利用促進ポスティングの実施 ●各地区への公共交通に関する講演、情報提供の実施 ●移動手段の導入に関する地区検討会（精明、加治、加治東地区）の開催 ●移動手段の導入に関する地区検討会（原市場、南高麗地区）の開催 			
各年度の取組			
H30	<p>○利用促進ポスティングの実施 地域へ運行する公共交通を利用し、その路線を維持していくことを促すため、赤字路線である国際興業バス名栗本線沿線の全世帯に対して利用促進及び意識啓発を目的としたポスティングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 第二区地区（永田地区を除く）、原市場地区（中藤地区を除く）、名栗地区 ・世帯数 約 4,000 世帯 		
R1	<p>○南高麗支部定期総会（南高麗地区、4月20日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 市の交通政策及び南高麗地区の移動手段について ・参加者 地元自治会、民児協等の役員 36名 <p>○第1回原市場地区公共交通を守る会（原市場地区、6月26日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 地域公共交通網形成計画について ・参加者 同会の役員 <p>○わくわく名栗クラブ第4回全体会（名栗地区、12月2日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 飯能市の交通政策について ・参加者 同会の会員 		
R2	<p>○わくわく名栗クラブの会議出席 同会の全体会及び部会に出席し、公共交通の現状等について情報共有をした。</p> <p>○地区検討会（精明、加治、加治東地区）の開催 飯能市乗合ワゴンの実証運行開始に向けた地区検討会を3回開催した。</p>		
R3	<p>○地区検討会（精明、加治、加治東地区）の開催 飯能市乗合ワゴンの本格運行に向けた地区検討会を2回開催した。 検討会の開催後、「みんなで考えようおでかけの足通信」を発行した。（1回）</p> <p>○地区検討会（原市場、南高麗地区）の開催 国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線の見直しに向けた地区検討会を3回開催した。検討会の開催後、「みんなで考えようおでかけの足通信」を発行した。（3回）</p> <p>○飯能名栗街道乗合バスの歴史に関する情報収集 令和4（2022）年の飯能名栗街道乗合バス100周年に際し、国際興業バス名栗本線等の歴史について情報収集を行った。</p>	<p>△おでかけ通信</p> <p>△地区検討会の様子</p>	
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・支線路線の見直しにあたっては、都度地区検討会を開催し、地域住民と意見交換を実施していく。 ・「公共交通は地域の資源であり、自ら乗り、育てていく」という意識を醸成するため、今後も沿線住民に対して意識啓発を行い、地域住民との意見交換を実施していく。 ・飯能名栗街道乗合バスの100周年記念事業の開催に向け、引き続き関係者間で準備を進める。 			

施策	4 公共交通利用のための利便性の向上	実施主体	市、地域、交通事業者
施策名	① 乗換利便性の向上		
実績の概要			
●新寺バス停付近の自転車駐輪場の維持管理			
各年度の取組			
H30	○サイクル・アンド・バスライドの視点から、「新寺」バス停付近の駐車場の管理を継続して行った。 ○パーク・アンド・ライドについては先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。		
			△新寺駐輪場
R1	○サイクル・アンド・バスライドの視点から、国際興業バス「新寺」バス停付近の自転車置き場の管理を継続して行った。 ○パーク・アンド・ライドについては先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。		
R2	○サイクル・アンド・バスライドの視点から、国際興業バス「新寺」バス停付近の自転車置き場の管理を継続して行った。 ○パーク・アンド・ライドについては先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。		
R3	○サイクル・アンド・バスライドの視点から、国際興業バス「新寺」バス停付近の自転車置き場の管理を継続して行った。 ○パーク・アンド・ライドについては先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。		
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・各バス停の状況を把握し、パーク・アンド・ライドの必要箇所の状況やその実施方法等について引き続き研究、検討を進める。 ・駐輪場の整備を実施した「新寺」以外の停留所についても、サイクル・アンド・バスライドができる環境整備が必要との要望があるため、地域からのニーズ等を踏まえた上で検討を進める。 			

施策	4 公共交通利用のための利便性の向上	実施主体	市												
施策名	① 高等学校等バス通学費補助														
実績の概要															
<p>●補助金の交付（H30～R3）</p> <p>●補助制度の見直し（R3）</p> <p>令和元年度に実施したアンケート結果等を基に制度の見直しを行い、対象者及び補助金額の拡大を行った。</p>															
各年度の取組															
H30	・平成30年度補助件数 84件（※平成29年度補助件数 108件）														
R1	・令和元年度補助件数 79件 ●アンケート調査の実施 現行制度について、高等学校等の生徒がいる世帯に対してアンケート調査を実施した。（配付数 171、回収数 80、回収率 47%）														
R2	・令和2年度補助件数 48件														
R3	・令和3年度補助件数 46件 ●補助制度の見直し（拡大） 令和元年度に実施したアンケート結果等を基に制度の見直しを行い、対象者及び補助金額の拡大を行った。														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">従来</th> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">令和4年度～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>補助対象者</td> <td>年間の通学バス定期券の購入額が<u>10万円以上</u>の学生の保護者</td> <td style="text-align: center;">➡</td> <td>年間の通学バス定期券の購入額が<u>6万円以上</u>の学生又はその保護者</td> </tr> <tr> <td>補助金額</td> <td>定期券購入額に伴って逡増した保護者負担額を差し引いた額</td> <td style="text-align: center;">➡</td> <td>定期券購入額から保護者負担額（6万円）を差し引いた額全額</td> </tr> </tbody> </table>				従来		令和4年度～	補助対象者	年間の通学バス定期券の購入額が <u>10万円以上</u> の学生の保護者	➡	年間の通学バス定期券の購入額が <u>6万円以上</u> の学生又はその保護者	補助金額	定期券購入額に伴って逡増した保護者負担額を差し引いた額	➡	定期券購入額から保護者負担額（6万円）を差し引いた額全額
	従来		令和4年度～												
補助対象者	年間の通学バス定期券の購入額が <u>10万円以上</u> の学生の保護者	➡	年間の通学バス定期券の購入額が <u>6万円以上</u> の学生又はその保護者												
補助金額	定期券購入額に伴って逡増した保護者負担額を差し引いた額	➡	定期券購入額から保護者負担額（6万円）を差し引いた額全額												
今後の課題															
<p>・新しい補助制度により、山間地域に在住する高校生等が安心して地域で生活しながら通学できるよう補助金を交付する。</p>															

施策	4 公共交通利用のための利便性の向上	実施主体	市、交通事業者
施策名	③ 利便性向上のための設備投資		
実績の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の運用 (H30～R3) ● 駅ホーム内方線付き点状ブロック整備事業の実施 (H30、R1) ● 駅ホーム声かけサポート講習会の開催 (R1) ● イーグルバス(株) 交通系 IC カードサービス開始 (R1) ● 西武バス美杉台路線における自動運転実証実験の実施 (R2) ● 名栗地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験等の取組 (R3) 			
各年度の取組			
H30	<p>○東日本旅客鉄道(株) 駅ホーム内方線付き点状ブロック整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容 視覚障害者等が駅ホームから転落することを防止するため実施 ・ 整備駅 東飯能駅 (JR) ホーム ・ 実施 東日本旅客鉄道(株) ※市 (県) から補助 <p>○「バスまちスポット」・「まち愛スポット」の継続運用</p> <p>埼玉県で進める「出歩きやすい街づくり事業」の取組の1つである当事業に市内施設が協力している。バス停の近くにある商業施設、公共施設等が、バスを気軽に待てる施設 (バスまちスポット)、バス停まで歩くときに休憩できる施設 (まち愛スポット) として登録されている。</p>	 <p>△内方線付き点状ブロック (JR 東飯能駅)</p>	
R1	<p>○イーグルバス(株) 交通系 IC カードサービス開始 (3月14日開始)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象 日高飯能路線、メツア直通線 等 <p>○西武鉄道(株) 駅ホーム内方線付き点状ブロック整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容 視覚障がい者等が駅ホームから転落することを防止するため実施 ・ 整備駅 東飯能駅、元加治駅 (西武池袋線) ホーム ・ 実施 西武鉄道(株) ※市 (県) から補助 <p>○駅ホーム声かけサポート講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日 11月15日 ・参加者 26名 ・会場 仏子駅ほか ・ 内容 視覚障がい者の駅ホームからの転落防止のため実施 ・ 開催 飯能市・入間市主催、埼玉県共催、西武鉄道(株)協力 	 <p>△イーグルバス交通系 IC カード</p>	
R2	<p>○西武バス美杉台路線における自動運転実証実験の実施</p> <p>遠隔監視システムを活用した自動運転大型バスによる実証実験を行った。路線バスの大型車両を使用した既存路線での自動運転の実証実験は国内初の事例。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施場所 飯能駅南口～美杉台ニュータウン (西武バス飯能営業所) 片道約 2.5 km ・ 運行日 2月23日～3月7日 延べ7日間 ・ 乗車人数 838名 ・ 実施主体 西武バス、群馬大学 ほか 	 <p>△西武バス自動運転実証実験</p>	
R3	<p>○名栗地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験等の取組</p> <p>名栗地区の観光客の周遊のため、グリーンスローモビリティの実証実験、シャトルバス運行等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容 グリーンスローモビリティの実証実験、名栗湖周遊・地域循環バスほか ・ 時期 11～1月 ・ 主体 JTB 川越支店 運行：美杉観光バス 		
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動運転を含めた新しいモビリティサービスの導入について、事業者等とともに継続的に研究を行う。 ・ バスロケーションシステム等路線バスを利用しやすくするための設備の導入等、市民だけでなく観光客等の来訪者にも利用しやすい公共交通について検討する。 			

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

おでかけを支える公共交通手段を地域が主体となって確保する

施策	1 「おでかけ」を守るための検討	実施主体	市
施策名	① 飯能市地域公共交通対策協議会の運営		
実績の概要			
●飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(第6回～第17回) H30：3回、R1：2回、R2：3回、R3：3回			
各年度の取組			
H30	○飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(3回) ・7月24日(第6回) 議事：メツアシャトルバス(3社共同運行)の運行内容について ほか ・10月29日(第7回) 議事：NPO法人による自家用有償運送事業について ほか ・1月11日(第8回) 議事：国際興業バス飯07系統及び飯11系統の経路変更について ほか		
R1	○飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(2回) ・5月24日(第9回) 議事：平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について ほか ・2月25日(第10回) 議事：「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の設置に関する協議 ほか		
R2	○飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(3回) ・6月25日(第11回) 議事：公共交通空白地有償運送の区域変更について ほか ・10月6日(第12回) 議事：公共交通空白地有償運送の更新登録について 南高麗地区の社会資源を活用した移送事業の開始について ほか ・12月25日(第13回) 議事：精明地区及び加治地区の新しい移動手段の実証運行(案)について		
R3	○飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。(3回) ・6月21日(第14回) 議事：飯能市乗合ワゴンの実証運行の状況及び飯能市生活交通確保維持改善計画の策定について 国際興業バス「中藤・中沢線」及び「間野黒指線」バス路線の最適化について ・10月20日(第15回) 議事：飯能市乗合ワゴンの本格運行案について 国際興業バス支線路線の最適化及び国庫補助申請について ・12月書面開催(第16回) 議事：飯能市地域公共交通網形成計画の一部改訂による飯能市地域公共交通計画の策定について ・3月1日(第17回) 議事：支線となるバス路線の再編について		
今後の課題			
・今後も必要に応じて協議会及び分科会を開催し、重要事項について審議する。			

施策

1 「おでかけ」を守るための検討

実施主体

市、地域

施策名

② 地域での交通手段を導入するための仕組みづくり

実績の概要

- 交通手段の導入手引きの策定と運用
- 「公共交通空白地有償運送支援補助金」の創設と運用
- 「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の新設
- 高齢者安全技能講習会の開催

各年度の取組

H30 ○交通手段の導入手引きの策定

路線バス等の公共交通が運行されていない地域、又は路線バス等の運行はされているが、運行本数が極端に少ない地域などにおいて、地域が必要とする生活交通を地域が主体となって導入し、運行することを支援するために「地域主体による交通手段の導入・確保の手引き」の策定した。

○「公共交通空白地有償運送支援補助金」の創設

公共交通の不十分な地域の住民の移動手段を確保するため、公共交通空白地有償運送を実施する NPO 法人等を支援するため制定した。



R1 ○「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の新設

市内の公共交通の不十分な地域の移動手段について、交通分野と福祉分野が連携して検討、導入するため、飯能市地域公共交通対策協議会に「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」を新設し、3月13日に第1回分科会を開催した。

・3月13日（第1回）

議事：当分科会設置の目的と今後の進め方について
市内の移動交通の現状と課題について ほか

・委員6名（座長：福島大学 吉田准教授）

・分科会の役割：

- ①公共交通の不十分な地域の移動手段についての検討と導入
- ②ラストワンマイルの移動手段について検討と導入
- ③様々な施策の中から地域の実情に合った移動手段を住民が主体的に導入・確保できる環境整備

○手引き「みんなで考えよう おでかけの足」（H30 策定）による支援

各地区における会議等において、既に移動サービスを担っている団体及びこれから移動手段の導入を検討している団体に対して、手引きにより移動手段導入のための支援を行った。

○「公共交通空白地有償運送支援補助金」による支援

・交付実績（令和元年度） 50万円

R2 ○高齢者安全技能講習会の開催

地域のボランティアドライバー等に対し、運転技能講習会を実施した。

・日 時 令和2年12月16日（水）9：30-12：00

・内 容 学科知識の確認、技能診断、講話 など

・参加者 10名

※飯能市公共交通空白地有償運送支援事業補助金 交付実績なし

R3 ○飯能市公共交通空白地有償運送支援事業補助金要綱の改正

・実施団体で加入する自動車保険について、10/10補助するよう要綱改正をした。

・交付実績（令和3年度） 39.9万円

今後の課題

・市内の公共交通の不十分な地域における移動手段の導入について、地域住民のもとに出向き、住民が求めている運行内容について意見交換を行う。

・「地域主体による交通手段の導入・確保の手引き」（令和元年5月策定）について、法令改正等に対応しながらよりわかりやすくなるよう必要に応じて内容を見直す。

施策

1 「おでかけ」を守るための検討

実施主体

地域、市

施策名

③ 地域による主体的な運営組織づくり

実績の概要

- 各地区の末端交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援（たすけあいあがの、飯能リハビリ館ほか）
- 自家用有償旅客運送事業「奥武蔵らくらく交通」の運行開始
- 「飯能市介護予防・生活支援サービスの充実に関する協議体（第1層協議体）」の開催

各年度の取組

H30 ○各地区の末端交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援
 ・吾野地区「たすけあいあがの」の移動交通部会への出席し、当該団体が運行する無償の移動サービス「らくだ号」の運行支援（情報提供）を行った。
 （4回：4月23日、8月27日、12月17日、2月25日）
 ・東吾野地区における「みんなで知ろう！移動手段の最新動向」（ふくしの森・東吾野、自治会連合会東吾野支部共催）に出席し、当地区における公共交通の現状等を説明し、地域団体の移動交通に対する共通理解を促した。（2月16日）
 ○自家用有償旅客運送事業「奥武蔵らくらく交通」の運行開始
 運行開始 平成30年12月9日
 運行区域 吾野地区、東吾野地区
 運賃 タクシーの半額程度（距離制）
 運行者 NPO法人奥武蔵グリーンリゾート



△奥武蔵らくらく交通出発式

R1 ○各地区の末端交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援
 ・吾野地区「たすけあいあがの」の移動交通部会への出席し、当該団体が運行する無償の移動サービス「らくだ号」の運行支援（情報提供）を行った。（3回：4月22日、5月18日、12月16日）
 ○「飯能市介護予防・生活支援サービスの充実に関する協議体（第1層協議体）」の開催
 ・市内の介護保険サービス提供団体、社会福祉法人等からなる協議体において、主に移動・移送支援をテーマに意見交換を行った（5回：4月25日、6月27日、8月29日、10月31日、12月19日）。また、市に対して移動・移送サービスに関する提案書を提出した。
 ・同協議体において、市内の移動・移送を含めた生活支援サービスを提供している団体、提供を検討している団体等を対象に「住民主体による移動・移送サービスに関する研修会」を開催し、サービスを提供する際の取組方法、留意点等についての研修を行った。（2月27日開催、27名参加、講師 埼玉県移送サービスネットワーク 笹沼氏）

R2 ○各地区の末端交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援
 ・南高麗地区における移動手段を確保するための運営組織づくり
 飯能リハビリ館（医療法人徳明会）による移送サービスの実証運行開始に向けて以下のとおり協議を行った。
 （3回：5月22日、7月17日、9月15日）

R3 ○各地区の末端交通手段の担い手である団体の運営組織づくりの支援
 ・南高麗地区における移動手段を確保するための運営組織づくり
 飯能リハビリ館（医療法人徳明会）による移送サービスの実証運行開始に向けて以下のとおり協議を行った。
 （3回：5月14日、11月9日、2月25日）

今後の課題

- ・市内には公共交通が不十分である地域が依然として存在し、末端交通手段の導入が課題となっている。各地区において、交通手段の確保を実現するため、担い手となる地域住民、団体等と検討する場を設ける必要がある。
- ・地域主体の移動手段の運営における安全面の確保、経費など役割分担を検討する。
- ・飯能リハビリ館による移送サービスについて、間野黒指線の見直しに伴い運行内容の変更について検討を行う。

施策 2 社会資源の活用の検討

実施主体 市、交通事業者

施策名 ① スクールバスの混乗

実績の概要

●奥武蔵小学校（旧吾野小）スクールバス混乗制度の実施

各年度の取組

H30 ○吾野小学校スクールバス混乗制度の実証実験の実施

○対象期間：平成30年5月16日～平成31年3月26日

○登録者数：108人

【結果検証】（12月21日までの集計に基づく）

○コース別利用状況

実証実験期間（主に平日【登校：128日、下校：105日】）の利用者は、延べ96人であった。1週間で約4.2人/週が利用したことになる。

コース別

- ・登校（北川コース） 41人（43%）
- ・下校（北川コース） 25人（26%）
- ・登校（南川コース） 6人（6%）
- ・下校（南川コース） 24人（25%）

○乗降バス停

- ・北川コースの登校では、岩井沢下の乗車31人から飯能車庫の降車18人、吾野駅の降車12人が多くになっている。下校を見ると吾野小学校の乗車22人から岩井沢下の降車22人が多くになっている。
- ・南川コースの登校では、吾野小学校の乗車4人から飯能車庫の降車4人が多く、下校では、飯能車庫の降車22人から吾野小学校の乗車22人が多く、吾野小学校で乗り換えが行われている。

R1 ○奥武蔵小学校（旧吾野小）スクールバス混乗制度の本格運行の実施

○令和元年度 実績

期 間：6月3日～3月4日

運行日数：登校151日、下校141日（うち2便運行あり105日）

登録者数：124名（+16名）

利用者数：延べ37名（週1.12名 ※前年度 週2.35名）

※台風19号の影響により、一部ルート通行不可（11/25一部復旧）

※新型コロナウイルスの影響により、3/5～運休

コース別利用者数

	北川	奥小	東吾野	南川	計
朝	19	4	8	0	31
夕	3	0	3	0	6
	22	4	11	0	37

R2 ※奥武蔵小学校スクールバスの混乗制度は新型コロナウイルスの影響により運休

R3 ○その他スクールバス

一般乗合路線で運行するスクールバスについて、交通事業者と市において系統の整理を行った。

※奥武蔵小学校スクールバスの混乗制度は新型コロナウイルスの影響により運休

今後の課題

・奥武蔵小学校スクールバス一般住民の混乗制度について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年3月5日から当面の間運休としている。教育委員会（小学校）と地域住民の意向を踏まえながら、事業内容の見直し及び運用再開について検討する。

施策	2 社会資源の活用を検討	実施主体	市、地域
施策名	② 送迎バスの活用検討		

実績の概要

- 飯能市乗合ワゴンの運行開始と総合福祉センター送迎バスの廃止
- 「飯能リハビリ館の送迎車の空席を活用した移送事業」の実証運行の開始

各年度の取組

H30 ○総合福祉センター送迎バスの実態調査の実施
総合福祉センターが運行している施設利用者用の送迎バスの実態調査を実施した。

R1 ○総合福祉センター送迎バスの乗込調査の実施
社会福祉協議会において、総合福祉センターが運行している施設利用者用の送迎バスの乗込調査を実施した。

○市内事業者等が運行する既存の送迎車両の活用の可能性について検討した。

R2 ○「飯能リハビリ館の送迎車の空席を活用した移送事業」の実証運行の開始
医療法人徳明会と市が協定を締結し、同法人が運営する介護老人保健施設「飯能リハビリ館」が運行する送迎車両を地区住民も利用可能とすることで、路線バスの空白時間帯における地区住民のおでかけの足の確保することを目的として開始した。

概要

- ・ 運行開始日 令和2年11月20日
- ・ 運行日 毎週金曜日
- ・ 運行回数 2往復/1日
- ・ 定員 7人(10人乗りワゴン)
- ・ 運行ルート 間野黒指バス停～小室クリニック
- ・ 協力 国際興業株

○「飯能市乗合ワゴン」の実証運行の開始と総合福祉センター送迎バスの廃止
精明地区及び加治地区における公共交通空白地の解消のため、令和3年3月10日から「飯能市乗合ワゴン」の実証運行を開始した。また、それに伴い、総合福祉センター送迎バスの運行については、令和3年3月31日をもって廃止した。

R3 ○「飯能市乗合ワゴン」の本格運行開始
令和4年1月24日から「おでかけむーま号」として本格運行を開始した。



今後の課題

- ・ 社会福祉法人等が所有する送迎車両を活用した地域の移動手段となるサービスの導入について、引き続き法人等と調整、検討する。